

お茶の水女子大学
人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻 日本語日本文学コース

修士論文題目一覧

2023年度	『枕草子』の「雪」表現の研究 ——和漢文芸の受容と創造——
	『正治二年院初度百首』に向けられた慈円の意図—歌枕への考察を通して—
	『八重葎』女君の人物造型 ——『狭衣物語』との比較から——
	萩原朔太郎の詩の「音楽性」とその意義
	揺らぐ芸術家の〈眼〉——中期太宰治作品における自己定位の問題と変遷——
	クリシタン資料の二重子音表記に関する研究
2022年度	「朝ドラ」における夫婦間の呼称 ——関係性の変化に着目して——
	童女君の「一夜妊み」をめぐる諸問題——雄略紀元年三月条を読む
	『枕草子』 「ある所に何の君とかや」章段の再解釈
	中世歌人の新しい中国文学への摂取——「柳」のイメージを中心に——
2021年度	現代日本語「ところ」の用法体系化の試み——内容語から機能語まで——
	『源氏物語』宇治十帖論——都と宇治への引力を契機として——
2020年度	後期野上弥生子作品における家族観
	「順百首」の研究—好忠百首との対応関係について—
	『源氏物語』紫の上と明石の御方の研究
	『正治後度百首』の研究
	『義経記』における人物造形
	吉本ばなな作品における無意識の世界
	「むとす」と「むず」の相違——構文的特徴に着目して——
2019年度	美容誌における外来語の使用状況とその特徴
	『紫式部日記』研究 ——憂愁の表現を中心に——
	九条良経『三十六番相撲立詩歌』の研究——注釈と「和漢融合」意識の考察——
	「洞院撰政治家百首」における新古今次世代歌人の表現—貞永期再評価を目的に—
	芝全交作黄表紙の手法
	泉鏡花「外科室」論 ——画師の語る〈真の美〉——
	太宰治テキストにおける〈弱い男〉のテキスト戦略——女語りに焦点化して——
	戦時体制と中島敦
	茨木のり子の姿勢 ——「対話」「寄りかからず」をキーワードに
	江國香織作品における視点の研究 —『きらきらひかる』『ホリー・ガーデン』『神様のボート』の焦点人物に着目して
アケからアカへ ——赤系統の色彩の総称の変遷——	
2018年度	『散木奇歌集』における「新奇」と「旧風」 —『俊頼髓脳』に見られる季語・歌語との比較を通して—
	近世における良寛和歌 自選歌集と書簡を中心に
	宮沢賢治：修羅のドラマトゥルギー
	安房直子の世界～異化と交流～
	〈完遂〉を表す複合動詞の通時的研究—「～トオス」「～ヌク」「～スマス」を対象に—